

第6回 認知症の医療と福祉の滋賀県大会 開催結果概要

1. 開催日時

令和4年1月16日（日曜日）13時00分から17時00分

2. 会場

Web 開催

3. 内容

- ・ 開会あいさつ（由布副知事、県医師会理事、大会長）
- ・ 発表（パワーポイントによる発表）
- ・ 閉会あいさつ

4. 参加者 151名

医療分野から、医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士等、介護分野からは、介護職員、介護福祉士、介護支援専門員、生活相談員、施設長・管理者、その他にも警察職員、家族の会、ボランティア、行政職、事務職等の多職種・多分野から参加

5. 発表者 12名

県内から公募した、病院、認知症疾患医療センター、診療所、デイサービス、警察の多職種・多分野の皆様から、実践事例や研究等を発表。

6. 参加者アンケート結果の意見から

- ・ 認知症患者対応型地域包括ケア病棟の役割、不眠に対するアプローチのヒントがいただけました。
- ・ 「良いケアができているねカード」は、医療だけでなく、福祉でも活用できると思います。当法人でも活用できないか検討したいと思います。
- ・ 男性介護者への関わりについては、プライドを傷つけないように関わる方法を学ぶことができました。
- ・ 身体拘束解除のきめ細かい取り組みが素晴らしいと思った。
- ・ 接し方・話し方やそのトーン、主張に耳を傾け同調、自尊心を傷つけないなど対応が素晴らしいと思った。
- ・ 若年認知症者のデイサービス参加ができるようスタッフに位置付け、役割と居場所づくりの工夫が参考になりました。発想の転換ですね。
- ・ 安全を考えて拘束することを第一選択にするのではなく、患者さんの強みを生かして転倒予防に取り組むこと。スタッフが統一したケアに取り組んだこと参考になりました。
- ・ 認知症疾患医療センターの丁寧な聞き取りや各職種がそれぞれの役割を全うされ、組織としての意識の高さが分かった。

7. 発表者アンケート結果の意見から

- ・ 今回発表したことで、高齢者への対応に、特に意識をもって業務に取り組むことができた。

- 滋賀県一丸で認知症のことに取り組んでいる方々と一緒に時間を過ごせ、また頑張ろうという気持ちになった。
- スタッフ全員が認知症に対する理解を深められました。
- 認知症の患者さんに対する意識が変わりました。フド一手袋や抑制を開始する前に、本当に必要なのか考えるようになりました。